

指定管理者上半期モニタリング評価表(令和7年度)

施設名:和光市民文化センター

指定管理者名:公益財団法人 和光市文化振興公社

1 設置目的・使命の達成状況(文化事業に対する取組)

項目	令和7年度 上半期(自己評価)		モニタリング評価		
	成果の説明	配点	自己評価	評点	
1 市民の自主的で創造的な文化活動の場や機会の提供	減免助成支援制度の新規要望団体として1団体(市内コーラス団体)を助成対象とした。また、継続しての支援団体として6団体を助成対象とし、上半期は計7団体となっている。	4	4	4	
2 市民や地域の文化団体や企業との連携及び支援	広沢地区エリアマネジメント・アライアンス会議へ委員として職員が参加している。9月に、むさしの和太鼓連盟の事業に協力した(共催) 下半期には、JAあさかの主催コンサート、和光市商工会主催のわこうのほっこり鍋イベントへの協力を予定している。また、商工会加入企業がサンアゼリアイベントに協力し出店もしている。鍋イベントではコンサートを実施予定	4	4	3.33	
3 地域文化資源の保存・継承・発信	上半期は実施無し。今年度は12月および1月での実施予定。 12月:いち♪に♪のサンアゼリア!こどものうたコンサート(童謡) 1月:Cocoroほっこりコンサート(出演:コンクール受賞者、うずら児童合唱団&わこうっこ合唱団ほか)	4	3	2.67	
4 市民ニーズに応じた国内外の優れた舞台芸術などの鑑賞事業の充実	鑑賞型事業として16事業を実施した。以下抜粋。 4月:松山千春コンサート 5月:近藤嘉宏 30th ANNIVERSARY PIANO RECITAL 7月:江原啓之の幸せへの導き 9月:坂東玉三郎~お話しと素踊り~ 他	4	4	3.67	
5 幅広い世代、様々な市民を対象としたプログラムの実施	マチナカコンサートとして2地域で実施した。 5月:総合児童センター(272人)広沢地区 9月:福祉の里(183人)新倉地区 音楽のたね♪は後記8のとおり	4	4	3.67	
6 文化の発信基地として文化に関する多様な情報の収集や発信	上半期のサンアゼリアウェブサイト表示回数は20万6,095回であり、事業では「松山千春コンサート」、「坂東玉三郎~お話しと素踊り~」が特に表示された。SNSでは、X、Instagramで平均2~3日に1回ペースでの発信となっており、インターネットでの発信を意識的に適宜行っている。職員研修は後記23、SNSは後記17のとおり	4	3	3	
7 世代間・地域間・団体間交流事業など、様々な市民ニーズに対応して、地域アイデンティティの形成を支援	減免助成支援事業として、上半期は計7団体の事業を支援している。また、市内児童合唱団の活動をサポートして、子どもたちの心の醸成にも寄与している。和光ジュニアオーケストラの立ち上げとなる第1回定期演奏会の開催に向けて支援を行っている。マチナカコンサート(前記5)では、5月に市内音楽教室所属アーティスト、9月に東京音大生を起用した。	4	4	3.33	
8 地域の文化人材の育成、起用、協働に向けた「人づくり」のための事業展開	おんがくのたね♪として、市内小中8校で実施した。 5月:下新倉小 6月:第四小、白子小、第五小、北原小、本町小、大和中 9月:第三小	4	4	4	
9 和光市が実施する各種文化行事等の受託及び協力	次年度に実施予定の全市的な事業について、日程及び施設の調整を図っているところである。また、商工会鍋イベントの実行委員オブザーバーとして職員が参加している。5月の「みんなのわこらぼまつり2025」に於いてアンケートを実施(後記12)した。なお、11月の市民まつり、1月の商工会鍋イベントに参加予定である。	4	3	3	

10	独自性・独創性を備えた新たな事業の実施	上半期では、マチナカコンサートin福祉の里に東京音大メンバーが出演した。(前記5)、その他協働事業として12月と3月に実施を予定している。 12月:「フィガロの結婚」楽器アンサンブルコンサート 3月:～シュトラウス親子が描くワルツの世界～	4	4	3.67
11	第5期指定管理期間のコンセプトに基づいた年間事業計画の作成・実施	9月に、むさしの和太鼓連盟の事業に協力した(共催) 下半期(10月、2月)での事業実施で進行している。 10月:福田博子 遊筆展 2月:野田流切り絵作品展 その他、前記9のとおり各種イベントに参加する。	4	3	3
12	指定期間における中長期的な計画的な事業計画・段階的な事業展開・事業の成熟化	上半期では、8事業でアンケート調査を実施した。回収率は55.6%であった。また、5月の「みんなのわこらぼまつり2025」に於いて、まつり来場者へのアンケートを実施。あいにくの雨の中であったが2時間で183人から回答を得た。これらの内容を分析して、来年度への事業等へ活用していく。	4	4	3.67
13	前年度事業評価委員会での助言等に対する取組	全体会議や職員ミーティングを通じて、取り組みに向けた共通の認識を図り、意識的に取り組んでいく。事業評価委員会でのご意見(音楽分野以外での取組強化等)への対応の一環として、2月に切り絵ワークショップを予定している。	4	3	3

2 施設の運営に関する項目

項目	成果の説明 ※必須	モニタリング評価			
		令和7年度 上半期	配点	自己評価	評点
14	総入場者数の確保に対する取組	令和7年度上半期の施設利用者数は74,351人であり、前年度同時期比で8.6%増となっている。	4	4	4
15	稼働率増加に対する取組	令和7年度上半期の各施設稼働率は、大ホール87.4%、小ホール67.1%、会議室48.2%、展示棟52.5%である。ホール稼働率においては前年度同時期比で、大ホール4.5%増、小ホール3.7%減となっている。空きホール対策として、9月にバックステージツアー(サンアゼリアでやってみよう!大ホールで舞台のお仕事&アーティスト体験~第二弾~)を実施した。	4	4	3.67
16	利用者の平等な利用の促進	施設利用予約日初日に施設予約会に参加する団体は、平均して5団体前後であり、希望日が重なっている場合は抽選となるが、予約が取れなかった団体は0件であった。	4	3	3
17	分かりやすい利用案内・事業案内及び周知活動(広報活動を含む)	SNSでは、X、インスタグラムで平均2~3日に1回ペースでの発信している(前記6)、Xの投稿数67、表示38,264、インスタグラムの投稿数50、インプレッション35,800、フォロワー291であった。広報誌(催し物案内)を6月と9月に各80,000部発行した。	4	3	3
18	施設利用者及び来場者の満足度とそれに対する取組(アンケートの分析・苦情トラブルへの対応を含む)	当施設への来場者でない方々の意見を求めて、5月の「みんなのわこらぼまつり2025」開催時に年齢層別に概ね同数になるよう、不特定多数の来場者からアンケート調査を行った。その結果、183人から回答を得た。内容を精査して今後の事業に活かしていく。自主事業では8事業でアンケートを実施(前記12)、その他、利用者ニーズに応え、受付・チケット販売窓口及び会議室入口を視認しやすいように新たに掲示物を設置した。	4	4	3.33

3 施設の管理に関する項目

項 目		令和7年度 上半期	モニタリング評価		
		成果の説明 ※必須	配点	自己評価	評点
19	施設の安全管理の実施・危機管理体制の確立	8月に今年度1回目の消防訓練を消防署員の立ち合いで、職員・スタッフ計30名が参加して実施した。また、その翌日には大ホールにて、コンサート中の災害及び避難訓練を疑似体験してもらう参加型事業「避難訓練コンサート2025」を実施した。こちらも消防署員立ち合いのもと、出演者・一般の観客400名が参加しての実践的な訓練となった。	4	4	4
20	施設及び備品の適切な維持管・点検・整備	施設の設備・機器の点検を計画通りに実施した。ちなみに上半期の公社予算での修繕執行費は約420万円となっている。主な内容(抜粋)は次項目に記す。	4	3	3
21	中長期的な修繕計画の作成及び実施	展示棟空調機修繕、会議室照明器具更新、北側消防隊進入口修繕、避難誘導灯・非常照明器具修繕、大ホール舞台マニラロープ交換 他を実施した。なお、事故件数は0件である。	4	4	3.67

4 組織運営に関する項目

項 目		令和7年度 上半期	モニタリング評価		
		成果の説明 ※必須	配点	自己評価	評点
22	関連法令の遵守	定例会議及びスタッフ会議を毎月実施して情報共有化・意識の醸成を図っている。また、公社独自のコンプライアンス研修資料を現在作成中である。	4	3	3
23	必要人材の確保・配置及び職員の能力開発、ボランティアスタッフ等人的資源の育成・活用	次の各研修等に参加し、職員の知識及びスキルアップを図った。 4月:埼玉県公立文化施設協議会研修会(所沢市民文化センター) 6月:埼玉県社会保険協会セミナー(ウエスタ川越) 9月:全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会(国立オリンピック記念青少年総合センター) 他計13回17日間。	4	4	3.67

5 経営に関する項目

項 目		令和7年度 上半期	モニタリング評価		
		成果の説明 ※必須	配点	自己評価	評点
24	自主文化事業に対する収支比率とそれに対する取組	特定費用準備資金を充てた「アウトリーチ事業(おんがくのたね♪市内小中8校、マチナカコンサート2地域)」及び子どもゆめ基金助成金事業「サンアゼリア打楽器ワークショップ」を実施したほか、誰でもコンサートやサンアゼリアシアターなど自主事業26事業を実施した。	4	4	3.67
25	収入の確保の工夫及び施設の運営経費削減・効率的な運営に向けた工夫	前記17、20、21のとおり施設利用の充実を図った。和光市修繕工事(直流電源装置)等で利用可能日が減少したが、自主事業や点検・工事等の日程調整の結果、稼働率は、大ホール87.4%、小ホール67.1%であった。また、空きホール対策として「サンアゼリアでやってみよう!大ホールで舞台のお仕事&アーティスト体験~第二弾~」を実施した。	4	3	3

評価コメント

・施設での事業にとどまらず、アウトリーチ事業としての「マチナカコンサート」や「おんがくのたね♪」などにより、施設外での活動が活発な点が評価できる。

・コンサート中の災害及び避難訓練を疑似体験してもらう「避難訓練コンサート」の実施や、適切な維持管理による事故件数を0にするなど、危機管理の面でも評価をできる。

・上半期は、地域文化資源の保存・継承・発信の面で事業が行われていなかったため、その点について注力してほしい。

・施設への来館者以外の意見を収集する取り組みを行っており、今後新たな層へのアプローチを図りながら取り込んでいけることを期待する。

自己評価点 合計	90	点
評価点 合計	85	点